

平成18年度 第34回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第37回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 最終日:平成18年11月5日(日)
 会場:岐阜アリーナ

男子の部

<審判>

決勝 岐阜総合 74 $\left[\begin{array}{l} 18 - 13 \\ 16 - 14 \\ 21 - 18 \\ 19 - 15 \end{array} \right]$ 60 美濃加茂 増田博徳・山田祐治

岐阜総合は 今井、田代のシュートでリズムをつかむが、美濃加茂は 熊澤のミドルシュートで対抗し、序盤から膠着したゲーム展開となる。第1ピリオドは岐阜総合が18-13と一歩リードする。第2ピリオドに入っても、両チームともディフェンスのプレッシャーが強く、互いに思うようにシュートが決まらない。しかし岐阜総合は、気迫を見せてルーズボールを奪うと、素早い展開からゴールに向かい、吉原がオフェンスリバウンドから連続してシュートを決め、リードを守る。美濃加茂も巧みなパスワークから 松葉のドライブ、安藤のシュートで追い上げる。前半が終わって、岐阜総合が34-27とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜総合は 田代の連続得点や 栗原のポストプレーでリズムよく攻め、リードを広げる。センター 栗原が4ファウルでベンチに下がっても、ディフェンスを1-3-1に変え、必死の守りを見せた。第4ピリオドに入っても、岐阜総合は 杉本が1対1でシュートを決め、守っても相手のエース 熊澤にボールを持たせないディフェンスを見せ、攻守にわたる活躍でリードを守る。最後は落ち着いたゲーム運びから 栗原が連続ゴールを決め、勝負を決定づけた。岐阜総合は最後まで途切れない集中力でディフェンスを頑張り、74-60で美濃加茂を破って、昨年の今大会の雪辱を果たすとともに、2年ぶり3回目のウインターカップの出場権を獲得した。美濃加茂も 熊澤を中心に、松葉、馬場の3点シュートで追い上げを見せたが、相手の気迫に敗れた。(名越龍男)

女子の部

<審判>

決勝 岐阜女子 113 $\left[\begin{array}{l} 24 - 13 \\ 28 - 13 \\ 31 - 11 \\ 30 - 14 \end{array} \right]$ 51 県岐阜商 松野瑞穂・赤石恵美子

岐阜女子はオールコートマンツーマン、県岐阜商はハーフコートマンツーマンでスタートした。両チームとも固さが見られ、出足こそ互角であったが、次第に岐阜女子がディフェンスで激しくプレッシャーをかけて相手を圧倒し始める。相手のミス誘っては速い攻撃につなげ、伊藤のドライブ、田中沙の速攻、小野のゴール下シュートなどで着実に得点を伸ばしていく。県岐阜商も 長瀬のドリブル、パスを起点に 梶野、小野島がシュートを決める。前半を終えて、岐阜女子が52-26と大きくリードした。

後半に入っても、岐阜女子は激しいプレッシャーディフェンスで相手のミス誘い、伊藤、水谷の速いパス回しから、茅谷、田中優、田中沙がドライブやゴール下シュートで次々と得点を重ねていく。第3ピリオドには連続15得点の間、相手を無得点に抑える場面もあった。結局、ディフェンス力、高さ、スピードに優る岐阜女子が、終始相手を圧倒してベンチ入り15人全員を出場させる余裕を見せて、113-51の大差で優勝を飾り、15年連続16回目のウインターカップ出場を決めた。県岐阜商も 長瀬の攻守にわたる頑張りを中心にして、梶野、佐野のドライブ、山北のミドルシュートなどで食らいついたが及ばなかった。(小池匡弥)